

2025年度 自己評価を受けて

(教育を語り支える会の立場から)

北星学園大学附属高等学校の教育を語り支える会

事務局長 鶴田恵子

はじめに

2025年度も、生徒一人ひとりの成長を支えるために尽力された教職員の皆様に、心より敬意を表します。本年度は、コロナ禍を経て築かれてきた教育基盤の上に、生徒支援体制や教育内容がさらに充実し、学校として新たな段階へ進んでいることが感じられました。

自己評価を受けて

1. 本校が大切にしてきた「共育」の理念のもと、生徒・教職員・保護者が共に育ち合う教育が着実に実践されていることが、今回の評価からも確認されました。特に「チーム北星」としての一体感が、学校全体に広がっている点は大きな成果であると感じます。
2. 2025年度よりスクールカウンセラーが配置され、スクールソーシャルワーカーとの連携による支援体制が整えられたことは、生徒の多様な課題に応える上で極めて意義深い取り組みです。専門的視点を取り入れながら、生徒の困り感に寄り添う姿勢は高く評価できます。
3. 学習および進路指導においては、難関私立大学への合格実績に加え、系列大学への進学も含め、生徒一人ひとりの志望に応じた支援が行われている点が印象的でした。単なる実績ではなく、「その生徒にとっての最適な進路」を大切にしている姿勢に、本校の教育の本質が表れていると感じます。
4. 部活動においても、運動部・文化部ともに高い成果を上げるとともに、生徒同士が互いを応援し合う文化が育まれていることは、本校の大きな魅力です。活動の違いを超えて支え合う姿は、「共に生きる」教育の具体的な表れであると言えるでしょう。
5. また、ICTやDXの基盤を活かしながら、教育の質的向上へと歩みを進めている点も評価できます。今後は、これらの取り組みをさらに整理・共有し、学校全体としての教育力の一層の向上につなげていくことを期待します。

おわりに

本校は、生徒一人ひとりの可能性を大切にしながら、仲間と共に成長する学校として着実に歩みを進めています。私たち「教育を語り支える会」も、これからも一歩離れた立場から本校の教育を見守り、支えていきたいと願っています。今後のさらなる発展を心より期待しております。